

花見遺跡発掘調査

所在地 : 福津市花見の里3丁目 1977・1978
調査要因 : 一般開発
調査期間 : 令和5年8月1日～同5年10月13日
調査面積 : 420 m²
調査担当者 : 文化財課文化財係 崎野祐太郎

■地理的・歴史的環境

花見遺跡は、福津市南西部の丘陵地上に所在する集落遺跡であり、遺跡面海拔約12m、海岸線からの距離約700m弱を測る。当遺跡の所在する丘陵地は、大きくは犬鳴山系西山北西麓から市境に沿って延びる古期段丘に属し、そのうち最西部の派生丘陵として海岸部に向かい突出している。当丘陵北側には派生丘陵間の谷部と小河川「刈目川」が西貫し、谷部を介して北側丘陵地にも弥生以降の集落遺跡が確認されている。また、当遺跡所在地においては、かつて有志により縄文土器が表採されたとの報告もある。

■検出遺構・遺物

【遺構】

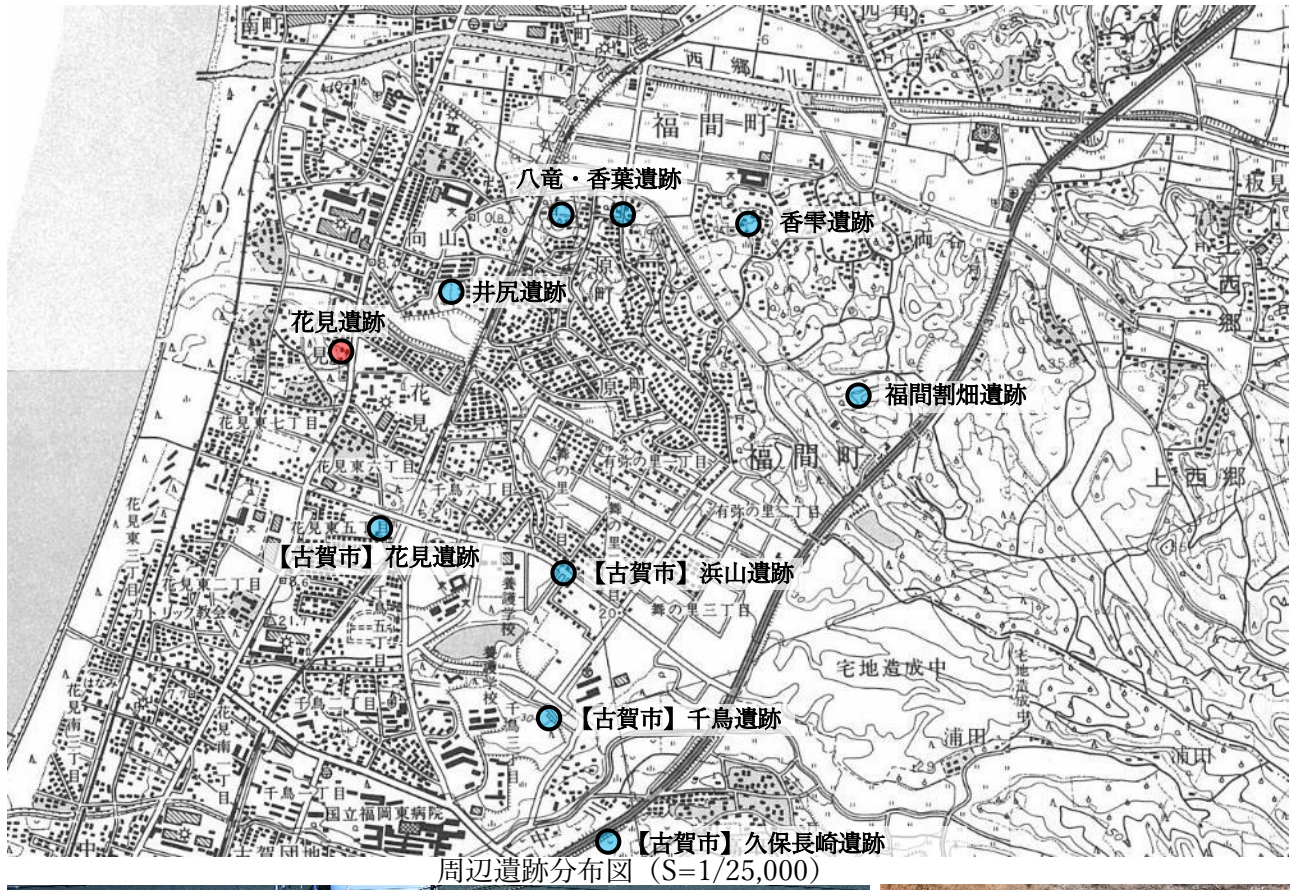
竪穴建物4棟、土坑3基、溝4条、小穴多数

【遺物】

縄文土器、弥生土器、須恵器、石器

■所見

丘陵東側斜面部に隅丸方形を呈する竪穴建物4棟の一部を確認した。調査区南東側隅から確認した3棟は近接して重複し、数度の廃絶と客土整地を伴う新設が繰り返された埋土堆積状況を示す。床面からは明確な柱穴痕を確認できていない。竪穴建物群周縁傾斜部には堤状地山高まりを確認、堤裾該当部には周溝状の溝が廻る。堤、及び周溝状地形は遺構丘陵尾根側では削平のため残存しない。調査区中央付近で検出の竪穴建物1棟は、先述の竪穴建物群よりも壁面立ち上がりが緩く、検出面と床面の比高差から残存状況も芳しくないが、床面一対角部及び中央部から柱穴状ピットが確認されている他、丘陵高所側に隣接して袋状土坑3基が検出されている。竪穴建物出土土器は細片主体かつ劣化が著しいが、外面に貝殻条痕が残存し、混和材として大粒の滑石が使用されず、器面には煤痕跡が顕著に認められ、かつ装飾性に乏しいのが特徴的である。調査区中央北側を斜面に対して斜行する溝からは須恵器片が出土しており、調査地内の遺跡検出面北限となる。これ以北は遺物包含層の残存状況が悪く、緩傾斜状に降りながら海浜部吹上砂の堆積も厚くなる。



花見遺跡空中写真



貯蔵穴土層状況



溝完掘状況



縦穴建物群完掘状況



縦穴建物完掘状況